令和７年度　学校経営計画表

１　学校の現況

学校番号	79	学校名	茨城県立鬼怒商業高等学校	課程	全日制	学校長名	荒井　智則
教頭名	野澤　武久					事務（室）長名	深谷　　充

教職員数	教諭	31	養護教諭	1	常勤講師	6	非常勤講師	3	実習教諭 実習講師 実習助手	3	事務職員	3	技術職員等	5	計	55

生徒数	小学科	１年		２年		３年		４年		合計		合　計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数
	商業に関する学科	78	80							78	80	4
	商業科			36	53	38	55			74	108	6
	情報ビジネス科			9	31	14	26			23	57	2

２　目指す学校像

○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校
○自ら考え、判断し、行動できる生徒を育てるとともに、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校
○安心・安全な学校

３　三つの方針（スクール・ポリシー）

「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校
「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	○次の６項目を推進することにより、鬼怒商業高校生としての誇りをもちつつ、将来、地域のリーダーとして社会に貢献できる「人財」の育成に努める。 １　生徒の個人的資質の向上に努める。 ２　商業に関する専門的知識の育成に努める。 ３　保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。 ４　生徒一人一人の資質･能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。 ５　安心・安全な学校づくりに努める。 ６　教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。
「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	○世の中の動きや商業に興味があり、商業に関する学習をしたい生徒 ○簿記・情報処理などの資格や商業の学びを生かして進学・就職したい生徒 ○目標をもち、本校での学習をとおして自分の可能性を伸ばそうとする生徒 ○学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒

４　現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学　習　指　導	○学習状況を各教科ごとに観点別に評価し、その実現状況を分析し評価することができている。 ○グループワークやペアワークを取り入れて互いに学び合う機会を設けた事により、積極的に学ぶ姿勢が見られる。また、生徒個々がタブレット等を活用し、互いに学習評価をすることができている。 ○ＩＣＴ機器を活用し基礎基本（振返り）を重視した家庭学習をとおして「わかる」「できる」と所感する生徒が増えている。	○教材研究の効率化やＩＣＴの有効活用、「分かる授業」が展開できるよう、教科内にとどまらず教員間での研修会等の情報交換を図る。 ○自律的活動力や自他理解など、学び続けるための基盤となる「態度・価値観」を育成する。 ○連携型キャンパス制に向け、オンラインでの授業展開や探求活動等において対応の準備を図る。
進　路　指　導	○求人票Ｗｅｂ閲覧システムを構築し運用した。家庭での求人閲覧が可能となり、より充実した進路支援をすることができた。 ○履歴書のディジタル化を進め、業務の効率化を図った。 ○進路資料室の整備を進め、進路担当者とクラス担任が、各生徒の個性や適性を見極めながら、夢や希望に向かった支援を行った。	○進路ガイダンス等の実施にあたり、各生徒の可能性を見出し「やりたいこと」「できること」を広げる観点から、計画的に実施する。 ○インターンシップの参加を積極的に促し、その経験を通して社会人としての意識を養う。 ○自己理解、社会理解、仕事理解を促進する。 ○企業に必要とされる人材育成を行う。
生　徒　支　援	○規範意識の高い生徒の割合が増えており、生徒は落ち着いた生活を送っていることから、学校全体としての秩序が保たれている。 ○服装指導及び頭髪指導など、生徒指導における学年間の格差はほぼなくなってきており、学校統一の基準で組織的な指導体制が整ってきた。 ○「服装指導票」が有効に活用されはじめ、教員間にも、「いつでも誰でもどこでも指導する」という意識が広まり、その結果、主体的に身だしなみを改善しようとする生徒が増えてきている。 ○SCの活用が広まり、生徒間トラブル等の早期発見やいじめ防止となっている。	○スマホ利用に伴うトラブル等について、継続的に注意喚起を続け、ＳＮＳ上の問題行動や被害を未然に防ぐ。 ○駐輪場や学校周辺の巡回指導を強化し、交通マナー、公共マナーを身につけさせ、地域から信頼される生徒を育成する。 ○多様性の時代に順応するように、必要に応じて校則の見直し等を行い、生徒ひとり一人に寄り添った支援を行う。 ○生徒事故の件数及び特別指導の件数を減らすと共に、いじめゼロを目指しながら、安心安全な学校生活環境を整える。
特　別　活　動	○全体を通して、生徒会役員・実行委員が活躍し、生徒の意向が十分に生かされた 行事運営ができている。また、生徒総会に向けての意見集約、行事後の振り返り 等を通して、生徒会活動に主体的に参加する姿が見られた。 ○文化的行事では、保護者4名まで限定で公開文化祭を行った。模擬店では初めてキャッシュレス決済を導入し、運営の効率化を図るとともに、キャッシュレス決	○学校行事の企画・運営を生徒が主体となる環境をつくり、生徒たちが積極的に行動できるようにする。 ○学校行事内容の精選等、日程および準備期間等の検討を図る。 ○各施設施錠の徹底を図るため、部活動内の意思疎通および責任意識を高める必要がある。 ○結城一高との連携に伴い、生徒会中心に地域イベントへの参加など学校外での活動の場を広げる。
教育活動充実のための業務改善	○教員の労働時間を把握し、定時退勤を呼び掛け勤務時間の縮減に取り組んだ。ポイントを絞った業務の取り組みで退勤時刻の早期化にも成功している。 ○保護者からの要求に対して教員が個人で対応するのではなく、学校が組織として対応することができている。 ○年間の考査回数を減少させ、授業で行う評価の比重を上げることによって授業の工夫が進んだ。	○生徒に必要な資質・能力の育成をする観点を維持しながら教育内容の精選・重点化を図る。 ○業務の効率化の一層の推進のためのペーパレス化を図る。 ○校内研修等の実施による教職員のＩＣＴ活用のスキルアップを図る。

5　中期的目標

本校の目指す学校像を踏まえ、鬼怒商業高校生としての誇りを持ち、地域のリーダーとなって社会に貢献できる「人財」の育成に努め、活気ある校風の確立を目指す。
そのために、次の６項目を努力目標とする。

1　生徒の個人的資質の向上に努める。
2　商業に関する専門的知識の育成に努める。
3　保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。
4　生徒一人一人の資質･能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。
5　安心・安全な学校づくりに努める。
6　教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。

6　本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1　生徒の個人的資質の向上	○基本的生活習慣の確立及び豊かな情操とコミュニケーション能力の向上 ○授業、部活動、学校行事等、学校教育活動全体を通じて達成感、生徒の自己肯定感の向上 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習改善による、新時代に求められる資質･能力の向上
2　商業に関する専門的知識の育成	○教科内の連携による指導法の共有及び授業公開と意見交換による教員の授業改善 ○タブレット端末や電子黒板等、ＩＣＴ機器を有効に活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現 ○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
3　保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり	○出前授業や学校Webページ等、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保 ○キャリアパスポートの活用及びキャリア教育の充実による進路実現100% ○ボランティア活動や課題研究等、地域社会と連携した体験的学習及び課題解決学習の充実
4　生徒一人一人の資質･能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり	○カリキュラム・マネジメントを推進し、計画的かつ組織的な教育活動の向上 ○ＰＤＣＡサイクルを機能させ、学校評価と関連付けた教育内容の質の向上および教師の授業改善 「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合９０％以上、生徒の授業評価よる「授業満足度」の学校平均を3.5以上 ○組織マネジメントの推進、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善
5　安心・安全な学校づくり	○生徒が安心して学習に取り組める環境づくり ○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応 ○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等、生徒一人一人と向き合う丁寧な対応
6　働き方改革の一層の充実に向けた業務の効率化	○各業務について、教育の目的達成に適切な方法となっているか不断の見直し ○校内における情報の共有化の推進 ○地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進 ○教職員による働き方改革を意識し、原則、時間外勤務の上限を月45時間、年間360時間以内を目指す